

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

348号

2020年2月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

2020年、解放から75年、朝鮮半島の今、そして未来、再統一の願いは

「私たちは5千年を共に生き、70年を別れて生きました。私は今日この場で過去70年の敵対関係を完全に清算し、再び一つになるための平和の大きな一歩を踏み出すことを提案します(2018年9月18日)」。文在寅大統領が15万人の平壤市民を前に語った演説の一部です。私はこの言葉に大いに励まされ、朝鮮半島の未来に希望を感じたことを覚えています。文大統領は素直な気持ちを語ったと信じています。

しかし1年半を過ぎた今、南北関係は厳しい状況です。朝鮮半島の自主的平和統一が簡単ではないのは事実ですが、いかなる険路も歩む努力を怠れば、たどり着かないものです。朝鮮半島の再統一を妨げている原因について考えてみたいと思います。

文大統領は今年の新年の記者会見で▲朝米関係の膠着状態に触れ、南北が対話を通じて協力を強化すれば関係改善する▲東京オリンピックで南北が合同チームを構成、合同入場を行う▲南北関係は我々の問題であり、我々が主体となって発展させるなどと語りました。さらに国連制裁の対象ではない観光分野の拡大と、離散家族の面会などを実施したいと抱負を述べました。

これに対してハリス駐韓米国大使は「米国と作業部会を通じて進めた方がよい」「南北関係の速度は米国と相談しなければならない」と発言し、大統領府関係者は「大使が大統領の発言に対して、公に言及した部分は大変不適切」と不快感を表明。与党内からも「内政干渉のような発言は、同盟関係にも助けにならない」などの批判が出ました。韓国内では過去と少し違う反応が見られます。南北問題を「主権」問題と位置づけ、外国の干渉を嫌う態度を明確にするようになっていきます。

今日の朝鮮半島の状況は、サンフランシスコ講

和条約、韓米相互防衛条約、日米安保条約、さらに韓日基本条約などによって形づけられましたが、このうち「サンフランシスコ講和条約」については韓国外交部は「署名国ではないので、領土問題や徴用工などの賠償請求権問題で制約を受けない」としています。

軍事同盟は共通の「敵」を前提にします。朝鮮は「米国が敵視政策をやめない限り、非核化交渉には一切応じない」と表明しました。韓米相互防衛条約の第4条には「米合衆国の陸軍、空軍及び海軍を、相互の合意により定めるところに従って、大韓民国の領域内及びその附近に配備する権利を大韓民国は許与し、米合衆国はこれを受諾する」と明記しています。韓国が米国との同盟関係を強化しながら、南北の平和統一を提案するのは「矛盾」と言わざるを得ません。

韓国は米国との良好な関係を維持しながら、南北統一を唱えれば朝鮮は韓国による「吸収統合」の底意を疑うでしょう。今、朝鮮半島は新たな「平和体制」を切実に必要としています。根本的な構造転換が求められています。朝米の関係改善に伴う平和協定の締結、朝日国交正常化、南北の平和統一へとつながる「鍵」は朝鮮半島の非核化です。「朝鮮の核とミサイルは、米国の核先制攻撃を阻止するため」と朝鮮は主張しています。米国は「先に核とミサイル開発を放棄しないと制裁は解除しない」と主張していますが、話し合いによる解決を呼びかけています。韓国は、今こそ朝鮮半島の「非核地帯化」と「中立国宣言」で、サンフランシスコ講和体制からの離脱と南北協調路線へと転換すべきときです。東アジアの平和と安全は朝鮮半島から始まる、そんな2020年になることを心から願います。(鐵)



▲新年の記者会見を行う文在寅大統領

2020年は節目の年、 力を合わせて運動を進めていこう 韓統連・韓青大阪本部・支部 常任委員合同新年会

2020年を迎え「韓統連・韓青大阪本部支部常任委員合同新年会」が1月12日(日)、京愛館(大阪市生野区)で開かれた。

合同新年会では、金隆司(キム・ユンサ)韓統連大阪本部代表委員が乾杯挨拶を通じ「昨年、朝鮮半島をめぐる情勢は物足りなさを感じました。しかし今年には光州民衆抗争40周年、6・15共同宣言発表20周年など節目の年です。このような節目の年を迎え、私たちの役割はより重要です。“時代は変わる。時代を変える”運動を力を合わせて推進していきましょう」と語った。



▲乾杯挨拶をする金隆司代表委員

その後、美味しい韓国料理を食べながら、親睦と交流を深めるとともに、参加者全員が今年の抱負を語る場面では、韓青生野北支部の新常任から初々しい抱負が語られるなど、2020年も団結して自主・民主・統一運動にまい進していくことを確認した。

韓統連生野支部の 24年間の活動の成果を共有する 韓統連生野支部新年会

1996年に結成され、日本で最も在日同胞が居住している生野地域で自主・民主・統一運動を行ってきた韓統連生野支部が、今年3月で活動を終了することになり、生野支部主催による最後の

大衆行事として「韓統連生野支部新年会2020ーありがとう生野支部 また新たな始まりのために」が1月16日(日)、生野支部事務所で開かれた。

新年会では初めに、金隆司韓統連大阪本部代表委員が「24年間、韓統連生野支部が行ってきた活動の成果を今日、皆さんと共有していきましょう」と乾杯挨拶を行った後、金昌範(キム・チャンボム)生野支部代表委員が挨拶を通じ「生野支部は1996年に結成され、その当時のメンバーは金昌秀(キム・チャンス)前代表委員をはじめ3名で、いろいろ試行錯誤をしながら支部運営を行い、成果を残してきました。志半ばで亡くなった金前代表のことを想うと残念ですが、今日の名称にも書いてあるとおり、この場を“新たな始まり”の場にしたいと思います」と語った。



▲参加者全員で記念写真

続いて、食事を交えながら親睦と交流の時間もたれ、その後、生野支部結成から今日に至るまでの活動の記録がスライドで上映され、「懐かしい」「みんな若かったなあ」などの声に参加者から上がり、雰囲気は最高潮、最後に参加者全員で記念撮影を行い、新年会は終了した。

伝統成年式を通じ、新成人を祝賀する 韓青・学生協成人祝賀会

2020年の成人者を祝賀する場として、韓青関西地方協議会と学生協の共催で「ウリ民族同士成人祝賀会」が1月19日(日)、KOKOカフェ(大阪市東淀川区)で開かれた。

成人祝賀会では最初に伝統成年式が行われた。

伝統成年式とは、高麗時代にその端を発する朝鮮民族の伝統的な成人式で、子どもの衣服を脱ぎ、成年期の服装を着ることで、肉体的な成熟だけでなく、精神的な成熟を強調し、真の大人としての品格を備える儀式だ。

伝統成年式では、金隆司(キム・ユンサ)韓統連大阪本部代表委員が祝辞を通じ「成人おめでとうございます。今の日本社会は困難が多く、少子化も進んでいます。韓国も同じような状況ですが、私は祖国が統一すれば、このような問題は解決できると思っています。成人になられた皆さんは、しっかり勉強して、信頼する仲間と歩いていけば、明るい未来が開けます」と述べた後、成人者に記念品を贈呈した。



▲伝統成年式に参加した新成人者

その後、成人者各自から「今後、在日同胞が住みやすい環境作りに努力し、祖国の統一に貢献できるように頑張っていきます」「これからは、成人らしい行動ができるようになるよう努力していきます」などの抱負が語られ、参加者から大きな拍手が送られた。

続けて祝賀会では、食事を交えながら親睦と交流の時間もたれらるとともに、ゲーム企画が行われ、大いに雰囲気盛り上がり、その後、韓青の今後の行事紹介が行われ、最後に崔孝行(チェ・ヒョハソ)韓統連兵庫本部代表委員が閉会挨拶を述べ、成人祝賀会は終了した。

トランプ政権は

イランへの戦争挑発を止めろ！

駐大阪米国総領事館申し入れ行動

米国とイランとの戦争の危機が継続される中、韓統連大阪本部も加盟している「しないさせない戦争協力関西ネットワーク(略称:シーサーネット)」が1月16日(木)、トランプ政権の対イラン政策の中止と中東地域からの米軍の撤退を求める駐大阪米国総領事館への申し入れ行動が行われた。



▲「戦争挑発反対」などを訴える参加者

申し入れ行動では初めに、大阪平和人権センター理事長の米田彰男さんが挨拶を行い、「トランプ政権が昨年末、イラン軍の司令官を殺害した事態から戦争の危機が高まった。現在は小康状態だが、いつ戦争が起こるかわからない状況が続いている」と述べながら、「私たちは日本で憲法9条を守り、憲法9条の精神を世界に広めていく活動をしている。その立場から今回の事態についてトランプ政権に強く抗議する」と訴えた。

その後、申し入れ行動に参加した各団体からアピールが行われた後、シーサーネット共同代表の増田京子さんが申し入れ書を朗読し、最後に「米国はイランへの戦争挑発を止めろ」などのスローガンを叫び、申し入れ行動は終了した。



【投稿】 強制動員問題解決のための「協議体」に日本政府も参画せよ！

日本製鉄徴用工裁判を支援する会 中田光信

一昨年10月30日、韓国大法院は元徴用工らの「強制動員慰謝料請求権」は日韓条約・請求権協定の「対象外」として日本製鉄に被害者への損害賠償を命じた。これに対し安倍政権は「国際法上ありえない。日韓関係を根本から揺るがす判決であり、韓国政府の責任で問題を解決せよ」との一方的な非難を繰り返し、マスコミもこれに追随している。そして日本製鉄や、その後判決が出された三菱重工や不二越などの企業には未だ「実害」が及んでいないにも係わらず、「経済報復措置」を発動したため一気に韓国世論が悪化、日本製品の不買運動、渡航自粛や反安倍集会などが開催される事態を迎えることとなった。その結果、日本経済、とりわけ観光業などが深刻な影響を受けただけでなく、安全保障分野(GSOMIA)にまで問題が波及していった。

このような状況のもと昨年12月、文喜相(ムンヒサン)韓国国会議長が解決策として、日韓の企業と民間から寄付金を募り、被害者救済のための財団を設立(記憶・和解・未来財団)する法案を韓国国会に提出した。提案をした文議長は法案の前提として「韓日首脳間の謝罪と許しがなければ、この法案もない。存在する意味がなく(成立)を進めることもない」と説明したが、法案自体は日本政府の責任を「免罪」する内容であったため、原告代理人の弁護士や日韓の支援団体が反対の声を上げた。

その後、今年1月6日になって日韓の弁護士と支援団体が「強制動員問題の真の解決に向けた協議を呼びかけます」という「呼びかけ文」を発表した。この中で「強制動員問題には労務強制動員問題(いわゆる徴用工問題)の他に、軍人・軍属として強制動員された被害者の権利救済の問題(軍人・軍属問題)も含まれ、強制動員問題全体を最終的に解決するためには、軍人・軍属問題も

含めて解決構想が検討されなければならない、労務強制動員問題の本質は、被害者個人の人権問題なので、いかなる国家間合意も、被害者が受け入れられる国際社会の人権保障水準に即したものでなければ真の解決にはならないので、労務強制動員問題の解決構想の検討過程に被害者の代理人などが主体のひとつとして参加する被害者の意向が反映できる機会が保障されなければならない」と明らかにした。

そして①加害者が事実を認めて謝罪、②謝罪の証としての賠償、③事実と教訓の次世代への継

承の3つの解決条件を充たす、解決案構想をまとめるための日韓両国の弁護士・学者・経済界関係者・政界関係者などで構成される「協議体」の設立を呼びかけた。

1月14日の年頭の記者会見において文在寅大統領も、この「協議体」に参加

する意向を表明すると同時に「被害者の同意なしには、韓日の政府間でいくら合意しても問題の解決に役立たないということを、私たちは“慰安婦合意”の時に切実に経験したところである」と述べて「被害者中心のアプローチがなければ、問題は解決しない」との考えを改めて示した。

大法院判決は、もともと日本政府自身が認めていた「個人請求権」に基づいて出された判決である。また請求権協定そのものを否定したのではなく、請求権協定の「対象外」として判断した問題の解決を日韓両政府に提示したのである。韓国政府は「被害者中心の原則」のもとで「協議体」への参加を表明した。解決の「ボール」は日本側に投げられたのである。



▲文喜相国会議長法案の拒否を訴える韓国民衆



【新成人の抱負】

成人の決意

在日韓国人学生協議会会長 高来鳥 (コ・リ)

私は今年、成人式を迎え、成人の仲間入りをすることになりました。

20年間を振り返ってみると、たくさんの方たちと関わっていく中で成長することができました。家族や友人はもちろん、たくさんの方たちと関わることができました。

なかでも在日同胞の仲間からは、たくさんの方の刺激を受けました。母国の言葉や文化、歴史などを勉強することによって「民族的に生きること」の大切さを学びました。しかし、日本で生きていると「民族的に生きること」は難しく、在日韓国人に対する差別は後を絶たないのが今の現実です。日本社会にいるのだから、日本人として生きることは当然で、その方が楽かもしれません。そのような現実の中でも差別と闘い、権利を獲得してきた同胞がいると知ったときはとても衝撃的でした。

自分にとっての「民族的な生き方」について考えるきっかけとなりました。

韓青や学生協に参加することで、歴史や情勢を学ぶ機会が増えて、深く考えるようになりました。

初めはちょっとした興味本位で参加した韓青や学生協の活動でしたが、同じルーツを持つ仲間たちから刺激を受けることで「自分の居場所」になっていきました。そこには日本社会で生きていると学べないことや、得られないことがたくさんありました。参加している方々の環境は異なるけれど、参加者それぞれが持っているもの、考えていることについて共有することで、自分自身について振り返るきっかけとなりました。

特に一番印象に残っている活動は、韓国でのキャンプでした。このキャンプを通じ初めて韓国に行くことになりましたが、いろいろな所を訪れたり、たくさんの方の話を聞いたりしました。現地の同

胞たちとの交流も楽しく充実しました。統一運動にも積極的に参加していきたいと思いました。特に刺激を受けた出来事は、集会和デモに参加したときでした。デモに参加すること自体初めてだったうえに、参加者の活気は今でも忘れられません。情勢や歴史についてより学び、より行動に移していかなければならないと感じました。そして、今まで民族に出会うことができなかった仲間たちに参加を呼びかけ、ともに学び活動していきたいと思いました。

そのような学びと経験を通じ、私は今、学生協

の会長をしています。このように会長を務めることができるのは、たくさんの方の先輩方のご指導があるからです。会長として活動していることはもちろんですが、このような団体に所属して活動することに感謝しています。感謝の気持ちを忘れずに、

祖国や日本での様々な活動に主体的に参加していただくだけではなく、新規学生の獲得に向けて積極的な動員活動を展開し、青年学生団体をはじめ各団体との共同の取り組みに積極的に参加していくことで交流を深め、結びつきをより広げていきます。

これからもたくさんの方の仲間たちと「民族的な生き方」について、ともに考え深めていきます。その過程を通じ、組織の拡大・強化につなげていきたいです。そして、一人でも多くの在日同胞が生きづらさを感じず、「民族的に生きること」ができるよう活動に取り組んでいきたいです。(了)



▲成人を迎えた高来鳥会長(左側)



◆◆韓国ドラマ紹介◆◆

町の弁護士 チョ・ドウルホ-罪と罰-

2020年になりました。今年最初に紹介する韓国ドラマは「町の弁護士 チョ・ドウルホ 2-罪と罰-」です。以前、この自主(チャジュ)で紹介したドラマの続編になりますが、主人公以外のキャストは入れ替わり、物語は前作よりも奥が深いです。

庶民派弁護士として活躍するチョ・ドウルホでしたが、ある裁判がきっかけで心身の病を患い法廷に立てなくなります。その後1年の時が流れ、浮浪者同然のドウルホのところにソミという女性が表れます。ソミの父親はドウルホが検事時代に世話になった捜査官で、ソミは行方不明になった父親を捜してほしいと頼むのです。

一方、グクイルグループの企画編成室長であるイ・ジャギョンは、グループの創設者であるグク会長の寵愛を受けながら自らの権力を強化してい

きます。彼女は幼いころ妹と児童養護施設で育ち、ある事件で妹を亡くし、妹の復讐を企てます。実はこの児童養護施設にグク会長が関わっています。



ドウルホとジャギョンの接点は、ソミの父親が関わっています。その後、ドウルホはグクグループが過去に行ってきた悪行を暴くために法廷で闘いますが、ジャギョンに邪魔をされ、なかなか前に進みません。果たして裁判の行方はどうなるのでしょうか？

ジャギョン役を演じるのは、韓国ドラマの名作「砂時計」でヒロインを演じたコ・ヒョンジョンさん。復讐するときの冷酷な表情が

印象的です。本編とは関係ありませんが、第8話で幼い少女がオモニ(母親)を探してほしいとドウルホを訪ねる章があります。この章、涙、涙の内容です。(ソン)

◆行事紹介◆

3・1独立運動101周年

植民地支配の過去を正しく清算し、平和協定の締結により朝鮮戦争を終結させ
朝鮮の自主的平和統一と東アジアの恒久平和を求める

3・3日韓民衆の集い

日 時：3月3日(火) 午後6時 開場/午後6時30分 開会

場 所：エルおおさか708号室(京阪・地下鉄“天満橋駅”下車徒歩7分)

内 容：韓国ゲストからの講演

講師：孫美姫(ソン・ミ) コリア国際平和フォーラム共同代表

参加費：1000円

主 催：3・3日韓民衆の集い実行委員会

問合せ：06-6583-5549(全日建連帯労組近畿地方本部)

編集後記

この季節してはとても暖かい。暖冬です。雪不足で困っている人もいますが、このまま春がきたらいいなあと思っています。桜が待ち遠しいです。

ソン